

寝ている間の8時間の透析をしていて、透析患者の生命予後が施設透析では世界一を誇っていたのです。当時の私は、こんな良い透析だったらこれが世界の主流になるに違いないと思ったものでした。もちろん、いつまで待ってもそんな世の中にはなりませんでした。

クリニックを開業するのだから、良いと思った透析を思い切りしてしまおう。長時間透析、オーバーナイト透析（夜寝ている間の透析）、在宅血液透析や頻回透析だってしてしまおう。透析室でアニマル・セラピーもしたいなあ。（犬の毛が機械にはさまったらどうすんですか！とMEに怒られました。）

夢を持つことは良いことですよね。目標とは違うかも知れませんが。夢はワクワクします。そういう夢を持って2012年11月に開業しました。まだまだクリニックの新米院長ですが、なんとかやっています。

「今まで体調も悪くて人生の先が見えなかったけれど、オーバーナイト透析で本当に体調がいいんですよ。それで、この間マンションのローンを組みました。」と30歳台の男性から脅されてしまいました（笑）。その方は以前のように走れるのが嬉しくて、ついには調子に乗って尚巴志マラソンを2時間で完走してしまいました。ほかにも健常者と同じように仕事をこなし、フロアリーダーになった方とか、有名なラーメンチェーン店で健康志向のラーメンを開発中とか、自動車のエンジニア、透析を通じて個性的な方々と交流することになりました。

「その人らしい生活を取り戻す」というのが私の裏テーマなのかも知れません。

それから最後に。開業後しばらくして、院長ブログを始めました。「千日行」ではありませんが、ある願掛けをしたので現在毎日更新中です。死ぬほど暇で通信料は発生しないという時にでも、のぞいてみてください。「さくだ内科クリニックの院長ブログ」です。（ちゃっかり宣伝！）

『卒業後の近況報告』

浦添総合病院副院長 整形外科 城田 真 一

同窓会の皆さん5期生の城田です。

私は現在、浦添総合病院の副院長として勤めています。専門は整形外科ですがその中で、膝を中心とした関節外科とスポーツ医学を主に診ています。

医者として25年目を迎え、現在に至るまでいくつかターニングポイントがありますが、6つのキーワードを用いて紹介させていただきます。

1. 上司、同僚との出会い、2. 大学院、3. 浦添総合病院、4. アメリカ留学、5. ロクト整形外科、6. 離島医療です。

まず1つめですが上司である上里智美先生（ロクト整形理事長）と、同じ5期生の嘉手川啓先生（ロクト整形J2院長）とともに25年間働いてきましたが、2人との出会いがなければ今の私はなかったと思います。常に患者第一に考えながらスタッフへも気を

配り、チームワークを中心に考えて進んできました。

2番目の大学院は平成3年大学卒業後、琉大整形外科へ入局し、平成5年にスポーツ医学をテーマに大学院へ上記の嘉手川先生とともに入学しましたが、当初は大学に所属したまま院のテーマを研究する予定でした。ところが、キーワード3、浦添総合病院の当時整形外科部長が開業するにあたり、上司である上里先生が後任の部長として就任が決まりました。それに伴い嘉手川先生と私は活動の拠点を浦添総合病院に移し、平日と土曜の午前中は手術や外来の臨床をメインに、土曜午後と日曜祝祭日は院の活動として高校野球球児やバスケットボール選手の検診などを行っていました。直接、高校生と接し、どこか痛みをかかえてプレーしている選手にはできるだけ練習を続けながら痛みを和らげる方法を考え、また検査や手術が必要な場合、日程の調整などなるべく希望に添えるように手配しました。その結果、口コミもあり浦添総合病院にはスポーツ障害で問題を抱える患者さんが増えていきました。大学院は平成10年に卒業し、さらなるスポーツ医学の見聞を広めるために平成11年から約1年間、キーワード4のアメリカ留学に行きます。場所はボストン、MGH（Massachusetts General Hospital）でメジャーリーグのレッドソックスやアメフトのペイトリオッツなどのチームドクタースタッフであったDr.Gillについて臨床研修を行いました。Dr.Gillの手術全てに手洗いして立ち合い、外来診察、スポーツの帯同にも参加し、Harvard Medical School スポーツ医学のClinical Fellowship もいただきました。現在も年1回はDr.Gillを訪ねアメリカスポーツ医学の動向を探りに行っています。

留学中も浦添総合病院の患者さんは増え、スポーツセンター設立の話も出ていましたが、浦添総合病院は地域医療支援病院となり、外来通院リハビリはなくなりました。スポーツ医学にとって手術も重要ですがその後、スポーツ復帰するまでのリハビリ治療がさらに大きなウエートを占めるので浦添総合病院だけの治療では不十分になりました。

そこで、外来通院リハビリが十分にできるキーワード5番目のロクト整形外科を平成12年に立ち上げます。当時、浦添総合病院に勤めていた整形外科医師6人が共同で開業しましたが、学生が学校の授業終了後にリハビリができるよう、平日は夜8時まで、土日も夕方6時まで開けるようにしました。ロクト整形ではバスの送迎も充実し、患者さんが順調に増え、嘉手納にロクト整形J2、来年には奥武山にロクト3号がオープンする予定です。

最後のキーワード離島医療ですが、まず宮古のくらはし整形外科から手術適応の患者さんを浦添総合病院に紹介していただきましたが、手術後のフォローアップを宮古で行うために平成20年より月1日、くらはし整形外科で診察させていただくことから始まりました。続いて公立久米島病院で、それまで常勤の整形外科医が離職するにあたり、応援依頼があり平成22年より日中